

第4回 中部圏広域地方計画有識者会議（概要）

日時 令和5年3月14日（火）13：00～15：00

場所 名古屋合同庁舎第1号館 11階共用会議室

1. 開 会

（中部地方整備局：稲田局長）

- ・昨年11月7日の第3回の有識者会議では、新たな中部圏広域地方計画の策定にあたっての視点、或いは目指すべき方向性を中心に、骨子検討にあたっての構成案として、各委員の方々に幅広いご意見をいただいたところである。
- ・今回、各委員の意見並びに、中部圏広域地方計画協議会の構成員の意見も踏まえて、中部圏広域地方計画の骨子素案を作成した。本日改めて各委員にお諮りしたい。
- ・全国計画、新たな国土形成計画の動きについては、昨年7月に中間取りまとめが公表され、その後、国土審議会計画部会において議論が行われているところ。今後、5月下旬に計画原案が取りまとめられ、都道府県、政令市からの意見聴取、或いはパブリックコメント等を行い、国土審議会を経て、今年の夏に閣議決定の予定となっている。
- ・中部圏広域地方計画についても、全国計画の閣議決定と同時期に、その骨子を公表する予定。
- ・今回の骨子素案が、そのベースであり、各委員の皆様から忌憚のないご意見を頂戴したい。

（事務局：安邊中部圏広域地方計画推進室長）

- ・加藤委員、白鳥委員、末松委員は、オンラインでの参加
- ・鶴田委員、増田委員は欠席

2. 議事

（1）中部圏広域地方計画骨子とりまとめに向けたスケジュールについて

（事務局：油井中部圏広域地方計画推進室総括副室長）

- ・資料1 説明

（奥野座長）

- ・ただいまの説明について、ご質問等あるか。

（特になし）

（2）中部圏広域地方計画骨子素案について

（事務局：油井中部圏広域地方計画推進室総括副室長）

資料2，資料3，参考資料 説明

（奥野座長）

- ・各委員から順番にご意見をお願いしたい。

(白鳥委員)

- ・目標 1 の魅力溢れる地域の創出について、特にデジタル技術の活用は必須であり、特に力をこめていくべき。また、26 ページの人材の育成・教育、これも地域にとって非常に重要。
- ・目標 2 の産業構造の高度化について、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現は待ったなしであり、伊那市でも目標値を立てて、いつまでにどのぐらいの数字を達成するのか、毎年取り組みを行っているところである。
- ・目標 3 の新たな大都市圏への進化について、第 3 章の実現に向けた主要な施策、リニア中央新幹線の効果、これを広域に波及させるための交通ネットワーク、情報ネットワークの整備については、特に国の方で主導して積極的に進めてもらいたい。
- ・目標 4 の恵みの活用、圏土の強靱化について、水と食とエネルギーを地域で賄っていけるようにすることは極めて重要なこと。できれば中部圏を一つのユニットとして、名古屋の大都市とその周辺に食料を供給したり、水を涵養したり、またエネルギーも再生可能エネルギーを作り出し、これらを一つの圏域の中で完結できるような取り組みを進めていくべき。
- ・地震や豪雨の災害時も同様に、お互いが助け合いながら、カバーし合いながらこの中部圏が成り立っていくという構造を進めていくことについて、中部圏はもちろんのこと、国の方にもしっかりと先導して進めていただきたい。流域治水の件についても、広い視野で災害対応ということになるため、天竜川にしても、長良川にしても、木曽川にしても、そうした繋がりの中で、一緒になって考えてほしい。

(江崎委員)

- ・昨日出席した環境省の会議において、生物多様性などの戦略会議もあり、国土形成計画との整合性ということ踏まえると、参考資料に 30by30 について記載があり、これから進めていく上で、2030 年までに国土の 30% の自然を守るところを中部圏では大事にしてほしい。特に、海域の 30by30 が難しいと言われているため、海にも配慮してほしい。
- ・リニアだけでなく、空港のことについてもしっかりと触れるべき。リニアと他の鉄道、それから空港などがしっかりとネットワークを組んで効果を上げられるような形になると、利便性とかビジネス面でも良く、観光という面でも、多くの方に滞留していただくという意味では、やはり交通の重要性を見ていただきたい。
- ・観光の側面について、最近では、日本の観光でも高付加価値やターゲットが富裕層であるといったことがよく出てくるが、国土形成計画や全体計画の中で重要なことは、産業として立てることに加え、国際平和ということがある。人々が交流することで平和を促進していくことが一番のベースにあることを忘れてはいけない。必ずしも富裕層だけでなく、1 人でも多くの方に旅行していただくべく、中部圏はどこの地域よりも旅行者が多いというような視点も持ってほしい。

(森川委員)

- ・中部圏を取り巻く情勢のところに、やはり中部圏ならではのことがもう少しあってもよい。必ずしもこの言葉を入れる必要はないが、中部圏は日本のハートランド、心臓地帯であると何度も言ってきて

いる。地理的にも動かせない事実であり、広域陸上交通の要でもある。リニアを含めた高速鉄道、高速道路も全部、8の字、ダブルトラックの交わるところが名古屋大都市圏にあるため、ここがつぶれてしまうと、国土の循環器である高速交通体系が死んでしまい、日本中が衰退してしまうことになる。さらに、循環器の要である経済の心臓がここ中部圏にある。そういう重要な場所だということ、もう少し出してもよいのではないか。

- ・将来像実現に向けた目標について、目標2の産業構造の高度化という言葉が引っかかる。構造の高度化が何を意味しているのか。2-2の内容だけならわかるが、目標2全体が産業構造の高度化というのは、意味がわかりにくい。
- ・目標3の新たな大都市圏への進化について、スーパー・メガリージョンの大都市圏の話で言えば、広い中部圏の中でこの目標3だけが名古屋大都市圏のことを言っている。名古屋大都市圏はスーパー・メガリージョンの一つの要であり、新たな大都市圏へ名古屋大都市圏が進化しないとイケないことは間違いないが、中部県内の高速交通体系を整備することによって、中部圏全域に効果を波及させていくということが必要。リニア中央新幹線の効果を、中部大都市圏、特に南北の交通体系を作って、日本海側から熊野の方まで広くその効果を波及させるということを加えてはどうか。

(浦田委員)

- ・内閣官房の冬のDigi田甲子園にて、高山市での取り組みを応募したところ、ベスト8という形で賞を受けた。これは、デジタルの活用によって地域の個別課題を解決し、住民の暮らしの利便性と豊かさの向上や、地域の産業振興に繋がる企業や団体が表彰されるというものであり、有識者の評価では、私たちの取り組みが一位という形で評価を受けた。高山での課題解決に向けて、産学官民連携でデジタルを使っていこうと、データ利活用を中心にまとめたこと、そのような一つの目標に向かって、さまざまな組織がデジタルをうまく取り入れ、観光DXという形で取り組んでいることが評価を受けた。
- ・デジタルは、いろいろな組織がうまく使ってこそ価値が高められる。資料2で、各項目にデジタル技術の急速な進展への対応という形で入っているが、言葉を聞くと、周りがデジタルを使っているものについていかなければならないという印象があり、もう少し、デジタルを使っていこうという、活用という言葉になってくるとよい。皆でこの目標達成に向けたテーマなり、課題解決に向けて、活用していけるような言葉になってくるとよい。
- ・観光となると、地域の魅力を高めて、関係人口を増やして、皆さんに来てもらい、買い物なり、ご飯を食べてもらって地域が潤うような仕組みを作っていく必要がある、そういった観点も入ってくるとよい。
- ・人材について、地方になると高齢化も進んでおり、デジタルに対して消極的な話がよくあると思うが、他の地域の方たち、若い方たちが一緒になって、目標に向かって取り入れていく、一緒にやっていく方法もあると思う。そういったマッチングの部分の部分をうまく取り組み、良い事例を作り、それを横展開し、他地域でも同じようなこと、やりたいところが真似できるような形をとっていけるとよく、そういった部分が少し入ってくるとよい。

(小川委員)

- ・わかりやすさや整合性という点で、3つほど気づいた点がある。
- ・1つ目は、骨子の中では、スーパー・メガリージョンという言葉がいろいろな場面で出てくるが、全

国計画の方では、出ておらず、言葉としては日本中央回廊という形での表現が新しく作られている。言葉の整合性が全国計画と若干が違ふということがあったため、整合性を取る必要があれば、補足的な説明等があった方がよい。

- ・2つ目は、将来像の中部圏で暮らす人々の Well-being を実現について、この Well-being という言葉について、将来像のところでは Well-being を実現するものとして使っているが、計画骨子の中では Well-being を向上させていくものとして定義されている。最終的に実現するものなのか、或いはそれを向上させていくものなのかが、読み手としてはすっきりしない印象を持った。
- ・最後に、8 ページに、物流業界の 2024 年問題ということが書かれているが、一般の方々にとっては、2024 年問題が何なのか全くわからないのではないかと。時間外労働の上限を物流にも当てはめることが 2024 年に起こることだと思うが、わかりやすく、そのような形で書いてはどうか。物流業界の経営側としては大きな問題かもしれませんが、トラックの運転手たちにとっては働き方の課題の解決に資するものであり、経営者目線の表記とを感じる。

(加藤委員)

- ・事前の意見交換で私が指摘した点が 19 ページ、若者、女性の圏外転出の項目で反映いただいている。
- ・私たちがいる静岡の西部エリアも同じであり、クリエイティブさというのが、なかなか地域として打ち出せない、盛り上がりにくいエリアと感じる。その結果、女性とか若者たちが、ワクワクしない、楽しくない場所になっていると感じていたが、数値的にもライブや公演の数が、首都圏や近畿圏と比べると少ないということも調査いただき理解した。
- ・静岡の西部エリアであればヤマハや河合楽器もあるが、音楽を楽しむことは、首都圏や近畿圏に負けている状態なので、モノからコトへということが言われて久しいが、せっかくものづくりが得意なので、モノを活用したコトで、若者や女性をもっと楽しく暮らしができるような雰囲気づくりが人口を増やしていくことになると思う。

(小玉委員)

- ・脱炭素化で世界をリードするという話があったが、その中でも水素やアンモニアが日本の戦える分野ということで、国も後押しの動きもあり、中部でも中部圏水素利用協議会の取り組みに加え、工場の CO₂ 削減も我々事業者も 2050 年 CO₂ ゼロを目指してやっており、直近 25% の目標に対して、まだ 20% 弱であり、大半は、革新技术と省エネでダウンしていくが、最後のところは再エネと水素でやっていくしかないというところで、車載用の燃料電池、水素混焼ガスエンジン、或いは水素バーナーといった 3 点で、ゼロへ向けて最後の追い込みを行っているところである。
- ・特に中部圏は経済の心臓の場所でもあり、国の GX 投資も官民で 150 兆円という話もあるが、この場所をモデルケースにしていけたらと思っている。供給面では、すでに、既存のステーションも 40 ケ所ぐらいあり、大変多い地域でもある。幹線輸送の拠点でも、大型トラックの需要が大変多く、いろいろな可能性があるエリアであると思う。
- ・自治体と商用の FC との協業という点では、弊社の方でも福島、東京、福岡の 3 ケ所それぞれで色々と始めている。作る、貯める、運ぶ、使う、それぞれをワンパッケージにできないかということで、福島では、いわきをはじめとした 30 万都市を原単位にした、スーパー、コンビニでの利用のセットや、東京では動脈から幹線輸送、或いは福岡では下水由来の水素、こういったものを使いながら

公用車とか、ごみの収集車などを導入して、一つのパッケージにしながら、具体的に動き始めているところである。

- ・タイでも、大きなコングロマリットの CP という財閥と組み、家畜ふん尿のバイオガスからスタートし、それをコンビニに運ぶ輸送のところで FC、燃料電池車を使いながら、電動化のコスト或いは水素充填によるダウンタイムをどう少なくしていくかに取り組んでいる。こういったことを中部圏でももっとやっていきたい。

(榊原委員)

- ・2 章について、カーボンニュートラルや DX といった注目されがちな内容について、過度に偏ることなくバランスよくまとめてくれたという点で非常に高く評価している。他方、防災やインフラといった中部圏にとって重要な内容について漏れなくしっかりと書き込んであり、素晴らしいまとめ方だと思う。
- ・それらを踏まえた上で一点コメントさせていただくと、今回は今後 10 年間の計画を立てるということであるが、10 年という期間は非常に短い期間であり、実行計画や実際の施策の部分を具体的かつ丁寧に書いていく必要があるため対応を宜しくお願いしたい。
- ・カーボンニュートラルの話に戻ると、各事業者の個々の施策は、事業者毎に考えながら進める部分もあることから、この計画では、どちらかというインフラ整備や防災といった民間では進められないところをサポートしながら記載していくことが重要になってくる。
- ・例えば、資料の後半に、生産拠点と受け入れ拠点の話は記載があるが、どこにどのように利用者を意識して配るのかという配送の部分が抜けている。水素やアンモニアをどのように各事業者に配るかというのは、モビリティにとっても、工場にとっても大事な話であり、このためのインフラ整備も非常に重要であるため、配送についても具体的な施策を記載いただけたらと思う。

(末松委員)

- ・資料 2 の使い方は、今後どのようなようになるのか。今後もし、この資料 2 の概略版を通じて各所に広報するのであれば、少し書き込んでほしい点も含めて言及する。
- ・中部圏の課題として求められている変化について、中部圏の特徴として製造業が多く、ものづくりのまちであるという中で、外国人労働者の数も非常に多いと思っている。本編と同様、概要版にも、外国人労働者に関することを書いてほしい。
- ・合わせて、若者や女性の圏外転出の抑止というような記載だけでなく、そういった方たちの活躍ができるという文言も入れると、もう少し希望が持てるのではないかと思う。
- ・合わせて、次世代の子供たちへのふるさと教育や、いろいろな企業が教育や社会見学に取り組んでいるが、教育の部分についての記述があまり見られなかったもので、その分野も少し加えてはどうか。理由として、中部圏は技術者が多く、技術者を育成している高等教育機関も多い。本市で言うと、高専もあり、教育委員会、教育機関との連携というの、ものづくり生産性を向上する部分では、大いに発揮をしてもらっている。もしデータとしてあるのであれば、4 ページの東京一極集中だけではなく、産学官連携で教育や研究の成果が出ているという図式のようなものを載せてはどうか。
- ・23 ページで、港湾の活用について、もう少し記載する方がよい。四日市港では、四日市港を中心として、これからの物流をどうするかを企業の方々がしっかりと考え、大いに活用している。ここでは簡

単な記載に留めるのであれば、第4章のところでもう少し具体的に書き込んでほしい。

(事務局：安邊中部圏広域地方計画推進室長)

- ・広域地方計画骨子のダイジェスト版として1枚で説明できる資料という位置付けで整理をしたもの。ご指摘があった箇所については、必要な修正はしっかりと行う。

(戸田委員)

- ・2章の23ページのスーパー・メガリージョンの効果の最大化について、スーパー・メガリージョンは、大都市部と中間の都市部、中山間部、これら全体を含むということだが、大都市部から効果が波及するというだけではなく、地域全域で自立性が上がってくると考えている。そのため、名古屋都市圏と首都圏の間に挟まれたエリアをどうするのかということは、非常に大きな課題である。
- ・配布した補足資料に沿って説明をさせていただくと、ここでは新東海地域におけるスマートリージョンビジョンと記載しているが、これは、従来は愛知、静岡、長野の県境エリア、三遠南信地域で地域づくりをやっていたものを延長していく形で、静岡、愛知の県境部分から静岡市のあたりまでを対象としている。従来の東海地域という捉え方に対して、大都市圏の間のエリアを新東海地域という一つの広域エリアと考えて連携していこうということである。提案主体は、当該エリアの大学、或いは経済団体型のシンクタンクであり、従来、国土計画を研究してきたメンバーが集まって、提案をしている。スマートリージョンとは、中部圏の広域地方計画と同じく Well-being の視点ということだが、ICTの活用によって、都市部、中間都市部、中山間部を一体的に変革しようとするもので、個別自治体等のICTの取り組みも二重投資やベンダーブロックを除去するような広域の単位で考えるということである。特にリニアによる東海道新幹線の利活用を踏まえた東海道沿線連坦都市帯について、また南北方向の地域軸も考えている。スーパー・メガリージョンの効果の最大化をより地域に落とす捉え方で広域地方計画に連動する提案である。
- ・26ページの小さな拠点については、先回の国土形成計画から、中山間部にとっては非常に意味があった。そのため、さらにICT等の技術を注力することによって、過疎地域、或いは中山間の集落ということを支える上で、意味が多いと考える。合わせて、今後の人口動向等、或いは都市のスポンジ化を考えると、概念的には都市部にも小さな拠点があってよいのではないか。

(野口委員)

- ・目標に関して意識してほしいところは、この目標の中で関わる人たちが、誰1人取りこぼさない人達によって作り上げられていくことである。女性や若者も入っているが、今や30%ぐらいの人口が高齢者や障害者になってきており、このことも意識して記載してほしい。この目標の中の歯車の中に取り込み、蚊帳の外ではなく、自分たちもこれに関わっているという意識を一人一人に思ってもらえるようなものになってほしい。
- ・この目標というものが、将来的に若者たちが達成していくものであるとすると、若者たちがこの目標を読んだときに、これを自分たちがやっていくという意識を持てるのかどうかを自覚してもらう必要がある。若者たちに受け入れられることを考えると、スケジュールの中にはパブコメがあるが、特に若者たちに意見をもらうような仕組みとして、例えば大学など、若い人たちがいるところで見てもらえるような環境を意識的に作り、若者たちの意見をしっかりと取ってほしい。

- ・教育の部分への記載がやや少ないのではないかと。若者や女性がこの中部圏から出ていく要因として、もしかすると教育の現場でも中央の大学に行くことや、中央の方がいろいろできるということを言っているのかもしれない。この目標にあるように、中部圏でもいろいろな産業があり、世界を引っ張っていく取り組みが行われていることを、もっと地域で、教育の場で伝えていくことで、中央に出て行く必要はなく、自分たちの住んでいるこの地域での取り組みを知ってもらうことで、流出を防げるのではないかと。これから若者たちが担う部分は多々あるため、そのあたりを意識した目標になったらよい。

(福和委員)

- ・全国計画の骨子案の密度と広域地方計画の密度に差が出てしまっているのは否めないと思うが、全国計画のキーワードをもう少し上手に取り込んで、整合性をとっていくことが必要かもしれない。
- ・この1年間、世界も、日本もそれまでとは全く違う危機的状況になっているため、その危機感をどうこれからの未来につなげるかということが大事である。危機をバネに、新しいビジネス展開をすることを強く打ち出すのが、この時期に作る広域地方計画の役割ではないかと。
- ・そのような視点で見た時に、この地区は日本で一番いろいろなことを連携しやすい地域である。規模的に横串を刺すやすく、ここで連携をするんだということを強く打ち出した方がよい。
- ・目標1について、地域生活圏という言葉はどう定義するかが、まだ若干曖昧になっている。おそらく、既存の行政区単位では、物事が決められなくなっているため、都道府県を越えた広域連携での議論と、市町村を越えた連携の部分と、集落を越えた連携の部分の三つがあり、地域生活圏は、その間の真ん中の話を言っていると思う。個々の小さな市町村ではできないことをグループを作ってやっていくことで果たすべき役割、もう少し広域のブロックで果たすべき役割、小さな集落では無理だから、小さな拠点を作ってやっていくことの3つを分類する必要がある。
- ・大都市の問題と地方の問題が混在しており、中部圏は全てがスーパー・メガリージョンに入るような場所ではないため、三重であれば南の地域や、岐阜や長野の山間部や、伊豆などについて、それぞれの場所が抱える課題をどう解決するかということの記載がなく、大都市圏の話に偏り過ぎている。伸びしろがあるのは、今弱い地域である。
- ・目標2の産業構造について、この地区は、災害リスクが高いところに産業が集まり過ぎてはいけなさと他の地区から言われがちであり、徹底的に産業を守るという大きな力がないと、皆が逃げってしまう感じがある。加えて、重厚長大なコンビナートをどうするかについても真剣に考える必要がある。どのように産業を転換させるのか、より安全なところにどう域内で移転させるのかというような戦略を書かないと、他地域との競争に負ける恐れを感じる。
- ・目標3は、スーパー・メガリージョンについて、中京大都市圏がどんな役割を果たすのかが記載されていない。この役割を明記しないと、ストロー効果のように両方に取り残されてしまうだけであり、この地区の強みをスーパー・メガリージョンの中でどう生かすかを強く書いた方がよい。合わせて、リニアの中間駅や、或いは東海道新幹線にひかりが多く止まるようになるため、そういったところをどう作っていくかということも、書いたほうがよい。
- ・北陸の人たちは中部のことを意識しながら広域地方計画を作っているが、中部の側が北陸のことにあまり触れなくていいのかということも気になる。
- ・目標4は、国でできることには限りがあるため、官民連携が必要であるということ。官民連携をして

いこうとすると、コーディネートが必要であるため、コーディネートの拠点、人材および仕組みづくりも必要となるため、そういったものを作るということを言った方がよい。人と、仕組みと、場づくりをするということを、最後に記載してほしい。

- ・ものづくりに関する記載が多いが、お金がないため、モノはそんなにつくれない。モノ以外のところを作るという発想をしてはどうか。
- ・この地域で足りないのは、シンクタンクである。名古屋大学も含めて、相対的に小さい大学ばかりがあり、小さい大学は教育で手一杯で、本当に新しいことをやる力がなかなかないため、できれば大学間がもっと連携して、上積みを作って、今まで誰もやってなかった発想ができるような、基礎的なことやコーディネートする機能をみんなで作るようなことをしたらどうかとの記載が必要。今は、産業界に比べて学の力が弱すぎるため、もう少し学の力も上げて、行政の力も上げてというような戦略を最後のところに記載してほしい。

(村上委員)

- ・医療分野の立場から、もう少し人に関する視点を盛り込んでほしい。資料2の中に未曾有の人口減少、少子高齢化の加速化ということをリスクとしており、18ページ19ページにも具体的なデータをもって危機感を示している割に、この目標ないし、変化への対応の中には、人口減少対策に関する内容がほとんどない。人口減少こそ、中部圏が衰退することに直結するため、全国でも同じテーマであろうが、人口減少を防ぐことを示す文言を入れてほしい。
- ・名古屋大学以外の中小の大学がたくさんあるという話もあったが、大学だけではなく、オール中部圏の発想、各県で連携して何かを取り込むというようなタイトル・文言も入れてはどうか。

(奥野座長)

- ・資料2をブラッシュアップするときの見せ方について、目標1と目標4は、全国どこでも共通にこのような表現になると思う。一方、これぞ中部というのは目標2と目標3になるが、目標2の産業構造の高度化は、いかにも平凡で弱い。産業の高度化というと、これは全国どこでも使える話で、これぞ中部ということをイメージさせない。ここのところが何とかならないか。
- ・高度化のところの右側に産業の生産性の向上という3つの黒ポチがある。これについて、例えば愛知県だと、愛知県はものづくりの本場で、付加価値も日本で一番高く、生産高もちろん一番高いが、労働者当たりの付加価値率は、東京、大阪よりも低い。
- ・目標3、新たな大都市圏への進化はスーパー・メガリージョンであるが、目標達成に向けたテーマで、スーパー・メガリージョンを中心として、ヒト・モノ・カネ情報が集まり、わが国の成長を牽引する拠点とあるが、産業というのは、今はまずアジアの拠点というところから始める。ものづくりについても、今の計画は、世界最強、最先端のものづくり圏域という表現を使っている。我が国の成長を牽引するよりは、アジアを牽引するといった表現の方が、日本で行われている他の産業の競争とのバランスではよい。そのあたりを考えてほしい。

(鶴田委員：事前コメント)

- ・産業面とインフラ整備の観点について、コロナ禍による出生率のさらなる低下や、長期化が懸念されるインフレの進行などに対して、日本の国際競争力がいかにして回復させていくかが大きな課題であ

る。

- ・ものづくり産業を基盤とする中部圏が、アジアを中心とする国際的なサプライチェーンにおいて重要な役割を担う存在となることは、日本全体の国際競争力の上昇に大きく貢献するはずである。そのためには、ものづくりの高付加価値と新たな産業の創出はもちろんのこと、リニア中央新幹線によるスーパー・メガリージョンの形成を追い風としつつ、名古屋港を中心とした中部圏の港湾施設の物流機能を、世界のトップレベルまで引き上げていくことが肝要である。
- ・一方で、港湾施設について、物流の機能だけではなく、にぎわいづくりや観光資源としての活用も期待されているため、昨年の港湾法の改正を受けた PFI 事業の積極的な推進も進めていくことが期待される。

(増田委員：事前コメント)

- ・自然保護の観点から言うと、利用することに重きが置かれており、保全という文言が非常に少ないのが気にかかる。特に生物多様性の保全に関しては SDGs でも重要視されており、是非とも生物多様性の保全という文言を何ヶ所かに入れてほしい。
- ・中部圏の生物多様性は、他の地域と比べても非常に豊かであるが、実際には、生物多様性の危機は深刻なものがある。中部圏の生物多様性の恵みだけを享受していたら、生物の多様性はあっという間に減少してしまうため、その辺りの認識をしてもらえるような文言を入れてほしい。
- ・21 ページ目の将来像、(2) について、402 行目、「美しい自然を維持」というものを、「美しく有益な自然を維持保全し」に変えて欲しい。
- ・23 ページ目の目標 4-1 について、476 行目について、「山々、川、海恵みを享受し活用」について「山々、川、海の恵みを享受し、保全活用」に言い換えてほしい。
- ・参考資料 1、41 ページ、目標 4-1 の (2) について、832 行目の「生物多様性の保全」という文言をぜひ入れてほしい。
- ・ダイバーシティ問題において、教育問題はほぼ解消されているため、549 行目の「教育」に関してはほぼ平等に行われていると思われ、「活躍の場」の方が重要である。

(事務局：安邊中部圏広域地方計画推進室長)

- ・いくつかの視点について、大きく分けて指摘をいただいた。
- ・一つは、デジタルのところについて、付いていこうではなく、使っていこうという視点を出したらどうかというご指摘をいただいた。
- ・その他、女性、若者、高齢者、障がい者、外国人、そういった視点をしっかり盛り込んだ表現が必要ではないかということであった。
- ・加えて、経済の心臓、ハートランドという言葉もあったが、中部圏の、アジアを牽引するといった産業機能の部分について、表現も含めて考えていくべきではないかといったコメントであった。
- ・そのほかにも、中部圏は連携しやすい場所であるとか、大学の連携といったような指摘もいただいた。大学の連携については、今まで視点として少なかった可能性があり、考えていくべきところであると思う。
- ・個々の施策としては、脱炭素、カーボンニュートラルといった視点、それから、カーボンニュートラルに関しては生産や受け入れだけでなく、配送といった視点も大事であるということであった。

- ・スーパー・メガリージョン、日本中央回廊といった言葉の中で、その効果をどのように隅々まで波及させていくのか、それがなかなか届きにくい周辺地域、山間部であったり半島部であったりにもしっかりと目を配るべきだというお話をいただいた。
- ・ワーディングの問題、全国計画との言葉遣いの整合の問題、また、もう少し言葉を尖らせていくべきではないかといったご指摘もいただいた。資料2をこれから修正していくことになるが、引き続きワーディングに悩みを抱えているため、先生方にはいろいろご相談に乗っていただきたい。
- ・人口減少については、その視点をしっかりと対応を書くべきということであった。いくつかは、この骨子というよりも、第3章、第4章の中で肉付けをしていくような部分もあると思うが、骨子も含めて、引き続きご指導いただきたい。

(4) その他

(事務局：安邊中部圏広域地方計画推進室長)

- ・資料1でご報告ご説明の通り、今年の夏ごろの骨子の公表に向けて、改めて、本日のご意見も参考に、修正作業等を進めて参りたい。
- ・骨子の修正について、大変恐縮ではあるが、まずは奥野座長にご相談をさせていただき、内容によっては、各委員にもご相談をさせていただく場面も出てくると思う。
- ・有識者会議については、骨子公表後も中間整理、或いは最終的な計画の策定に向けて、引き続き開催をしていきたい。

(事務局：油井中部圏広域地方計画推進室総括副室長)

- ・本日の議事概要については後日、中部地方整備局のホームページで公開する。議事概要については事務局案を作成後、委員の皆様を確認をお願いする。
- ・次回の有識者会議は骨子公表以降の開催を予定している。時期が参り次第、改めて日程調整をお願いする。

3. 閉 会

(中部運輸局：大石局長)

- ・ご議論いただいたご意見の中には、我々が日々の行政の中でしっかりとすぐにでも考えていかなければいけないものも多数あった。
- ・今後については、夏の骨子の公表、そして令和6年度以降の計画決定ということで、引き続き取り組みを進めて参りたい。

以上